

# さっぽろ未来創造シンポジウム 開催結果（概要）

## 1 開催趣旨

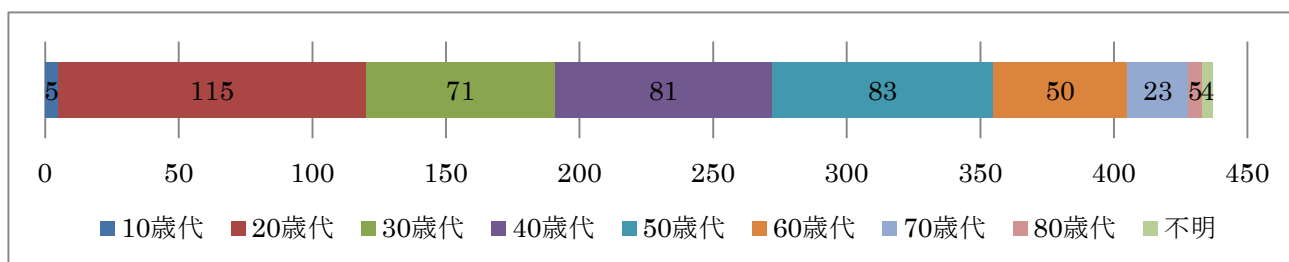
今後10年間の新たなまちづくりの基本的な指針となる「札幌市まちづくり戦略ビジョン」が完成しました。このビジョンを広く周知するとともに、これからのまちづくりについて市民の皆さんと一緒に考える「さっぽろ未来創造シンポジウム」を開催しました。

シンポジウムでは、「デフレの正体」や「里山資本主義」で著名な藻谷 浩介氏をお招きし、「人口減少と超高齢社会を迎える札幌の未来」についてご講演いただいたほか、「歩いて暮らせるまちづくり」をテーマに、市長と有識者を交えたパネルディスカッションを行いました。

2 日 時 平成 25 年 12 月 10 日（火） 18：00～20：30

3 会 場 かでる 2・7「かでるホール」

4 来場者数 437人



## 5 プログラム

### (1) 市長メッセージ

「私たちが目指す札幌の将来」

札幌市長 上田 文雄

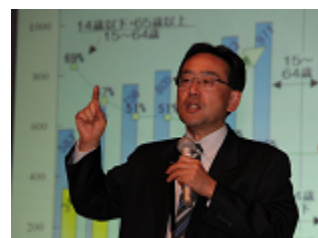


### (2) 基調講演

「人口減少と超高齢社会を迎える札幌の未来」

(株) 日本総合研究所調査部主席研究員

藻谷 浩介 氏



### (3) 札幌市の取組み

#### 「どうなる？札幌市の公共施設」

北星学園大学社会福祉学部教授

札幌市市有建築物のあり方検討委員会委員長

杉岡 直人 氏



### (4) パネルディスカッション

#### 「歩いて暮らせるまちづくり～みんなで考えるこれからの公共施設～」

##### ○コーディネーター

(株) 桐光クリエイティブ代表取締役

吉田 聡子 氏

##### ○パネリスト

(株) 日本総合研究所調査部主席研究員

藻谷 浩介 氏

北星学園大学社会福祉学部教授

札幌市市有建築物のあり方検討委員会委員長

杉岡 直人 氏

(社) 北海道総合研究調査会主任研究員

札幌市市有建築物のあり方検討委員会委員

寺下 麻理 氏

札幌市長

上田 文雄

主に以下の2つのテーマについて、ディスカッションが行われました。

#### ①歩いて暮らせるまちづくり」は、どのようなまちで、何を目指していくのか。

○「歩いて暮らせるまちづくり」は、集約型連携都市への再構築を進めていくこと。(上田市長)

○計画都市札幌は、歩いて暮らしやすいことを意識して作られたまち。冬も出歩けるかどうか、元気な高齢者をつくることにもつながる。(藻谷氏)

○「歩いて暮らせる」は、「歩いて暮らしたくなる」環境づくり。地域の活性化には、公共施設を多世代が一緒に使える「巢」として作り込むことが必要。(杉岡氏)

○共生とは、自分ができる役割の中で暮らし、それがつながることにより地域で暮らしていくということ。自分たちの地域のことは住民が一番分かっている。(寺下氏)

#### ②今後、公共施設のあり方をどのように考えていくべきか。

○今後は利用しやすい施設を考え、工夫していくことが必要。アンケートで多くの市民が賛成している複合化、民間施設の活用を検討していくべき。(杉岡氏)

○大通公園は、道路なのにビールが飲めるなど、道路をこういった使い方をしている自治体は他にない。今後は、公共施設でも同様に柔軟に進めていくべき。(藻谷氏)

○複合化は単なる合築では意味がない。行政は縦割りをやめて、施設の企画には市民の声を聞きながら、市民ニーズに柔軟に対応していくべき。(寺下氏)

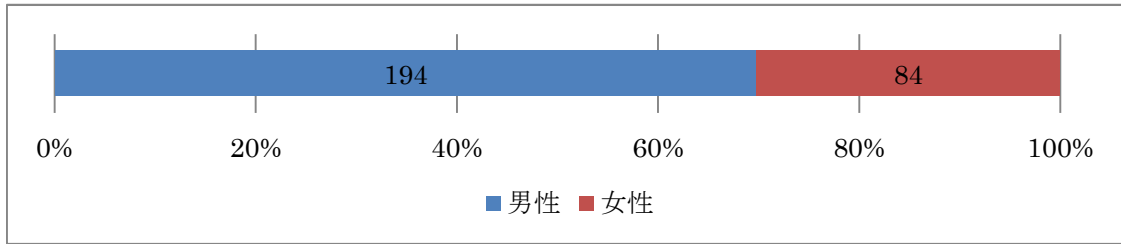
○複合化施設である資生館小学校は、ミニ児童会館、保育所などを、単なる合築にならないよう計画的に整備してきた。二条小学校の建替では、初めてまちづくりセンターを一体化し、高齢社会等の問題意識を共有できる取組を進めている。(上田市長)



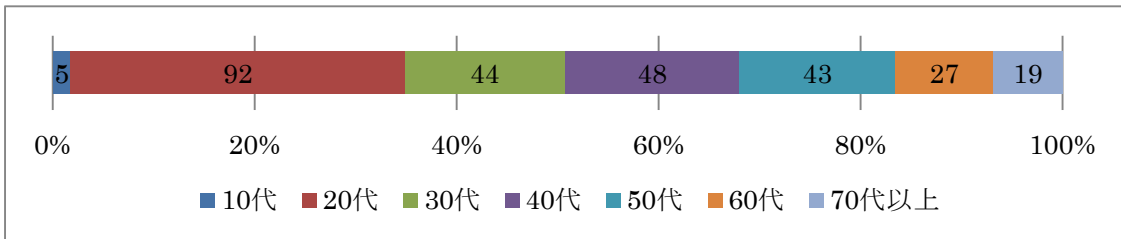
## さっぽろ未来創造シンポジウム 来場者アンケート集計

○回収率：63.6%（来場者437名 中 回答278名）

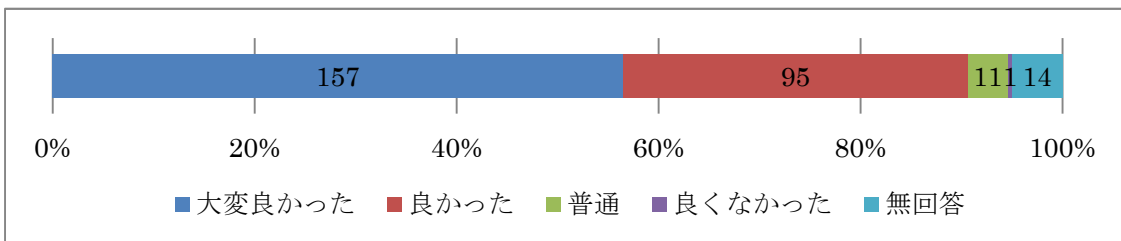
### 問1 性別



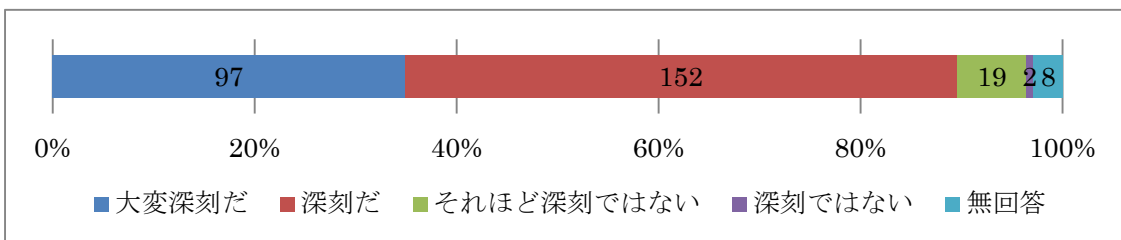
### 問2 年齢



### 問3 「さっぽろ未来創造シンポジウム」の感想はいかがでしたか？



### 問4 札幌市では、今後一斉に公共施設の建替え時期を迎え、更新等に係る費用が急激に増加していくことについて、どのように感じましたか？



### 問5 今後、公共施設のあり方を検討するに当たり、何を重視すべきと考えますか？（3つまで選択）

